

## 12. 健康に関する情報

### (1) ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度

問40 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは、「運動器官（筋肉、関節、骨など、人が移動するために使う器官）の障害によって、日常生活で人や道具の助けが必要な状態やその一歩手前の状態」の事です。あなたは、この内容を知っていましたか。  
 (○はひとつ)

全体では、「内容を知っていた」が14.9%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が18.6%で、この2つを合わせた《認知している》は33.5%となっている。また、「知らない」は65.2%となっている。(図12-1-1)

性別にみると、「内容を知っていた」は、女性（18.4%）が男性（10.8%）より7.6ポイント高くなっている。(図12-1-1)

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は、女性が70歳以上（22.0%）、男性が20～29歳、40～49歳、70歳以上（11.5%）で最も高くなっている。また、男性15～19歳（8.5%）が最も低くなっている。(図12-1-2)

図12-1-1 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（全体／性別）

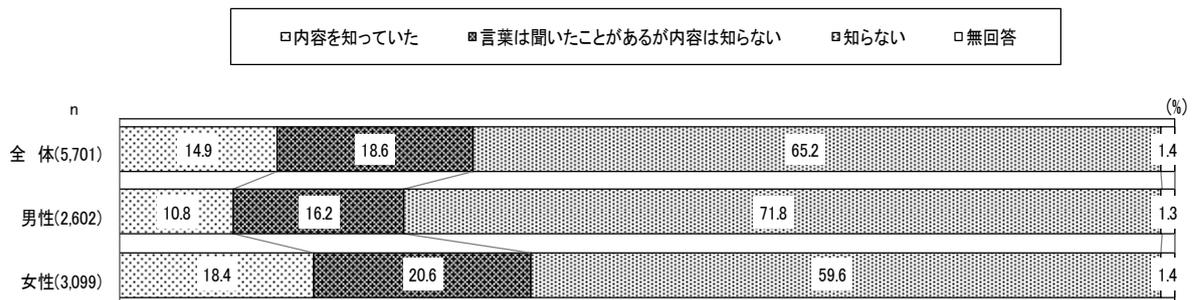
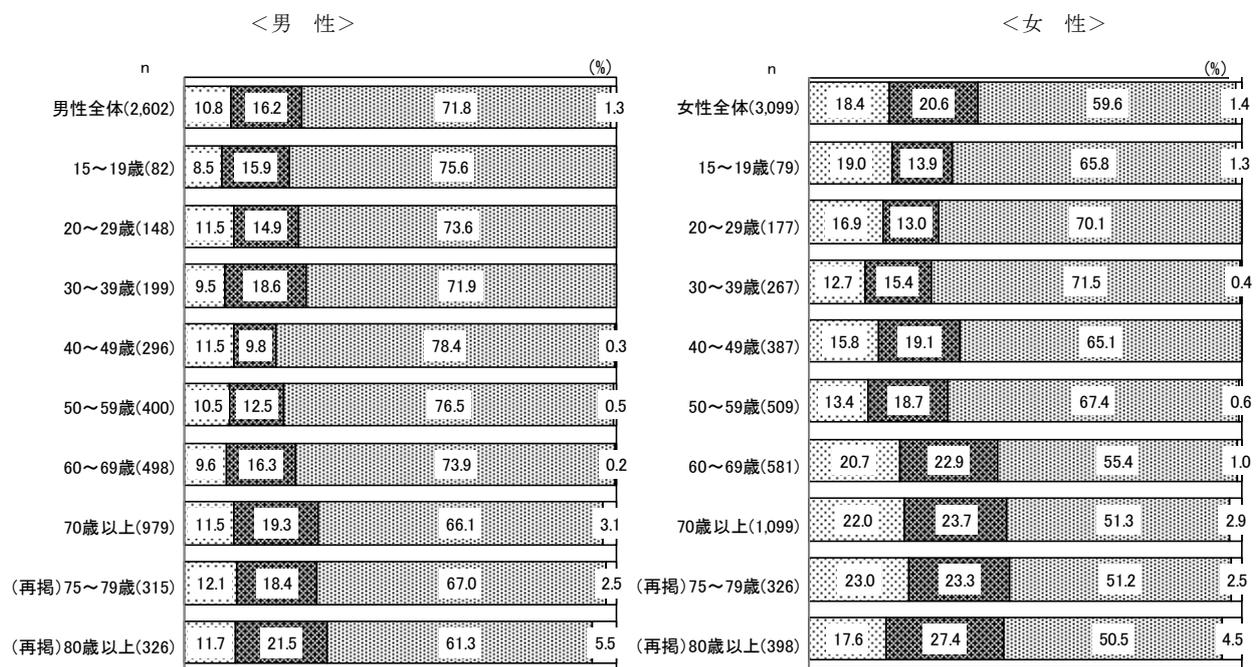


図12-1-2 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、「認知している」(33.5%)は令和5年度(43.7%)より10.2ポイント減少した。(図12-1-3)

性別で過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」は男女ともに令和5年度と比べて減少し、男性では令和5年度(17.9%)より7.1ポイント、女性では令和5年度(24.0%)より5.6ポイント減少している。(図12-1-4)

図12-1-3 ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の認知度(過去の調査との比較)

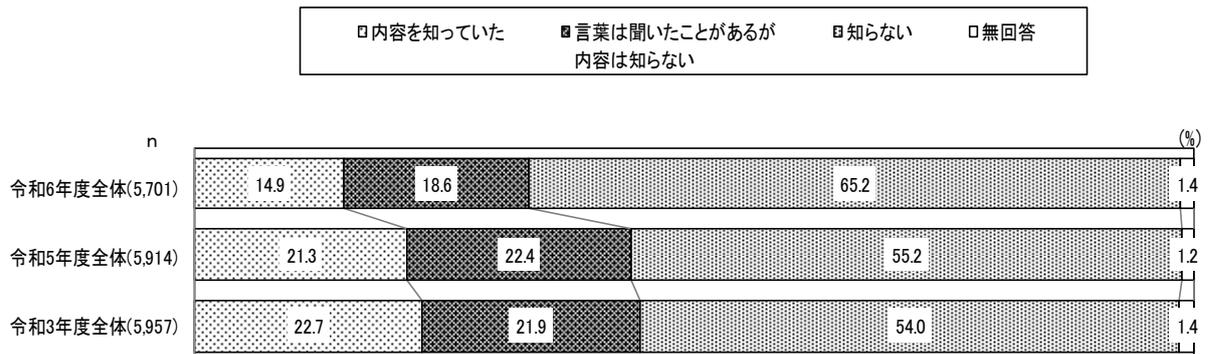
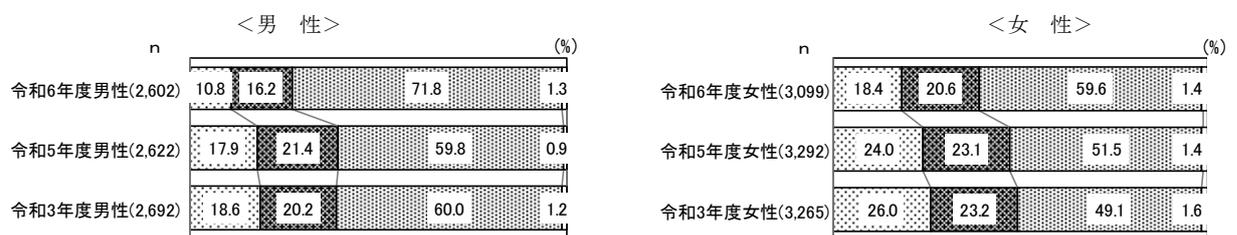


図12-1-4 ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の認知度(過去の調査との比較・性別)



(2) 糖尿病性腎症の認知度

問41 糖尿病性腎症とは、「糖尿病により高血糖状態が長く続くことなどが原因で、腎臓の働きが悪くなる病気」の事です。あなたは、この内容を知っていましたか。(○はひとつ)  
 ※ 人工透析をはじめの原因の約4割は、糖尿病性腎症が占めています。

全体では、「内容を知っていた」が29.6%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が20.9%で、この2つを合わせた《認知している》は50.5%となっている。また、「知らない」は47.9%となっている。(図12-2-1)

性別にみると、「内容を知っていた」は、女性(33.0%)が男性(25.6%)より7.4ポイント高くなっている。(図12-2-1)

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は、いずれの年齢においても女性が男性より高く、最も割合が高いのは女性の20~29歳(39.0%)となっている。(図12-2-2)

図12-2-1 糖尿病性腎症の認知度(全体/性別)

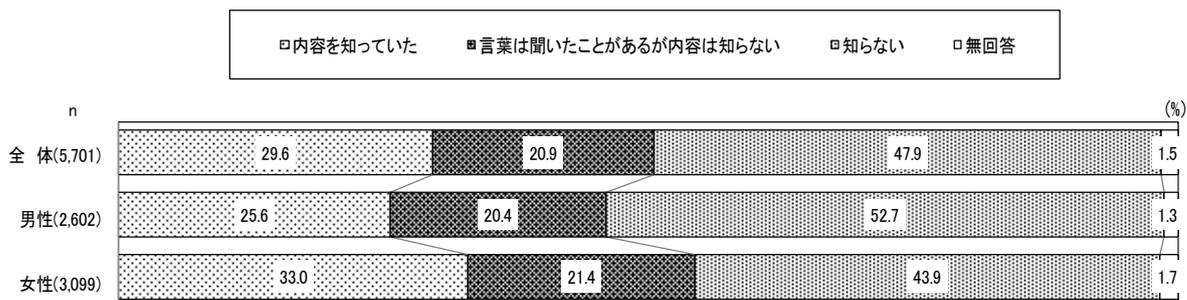
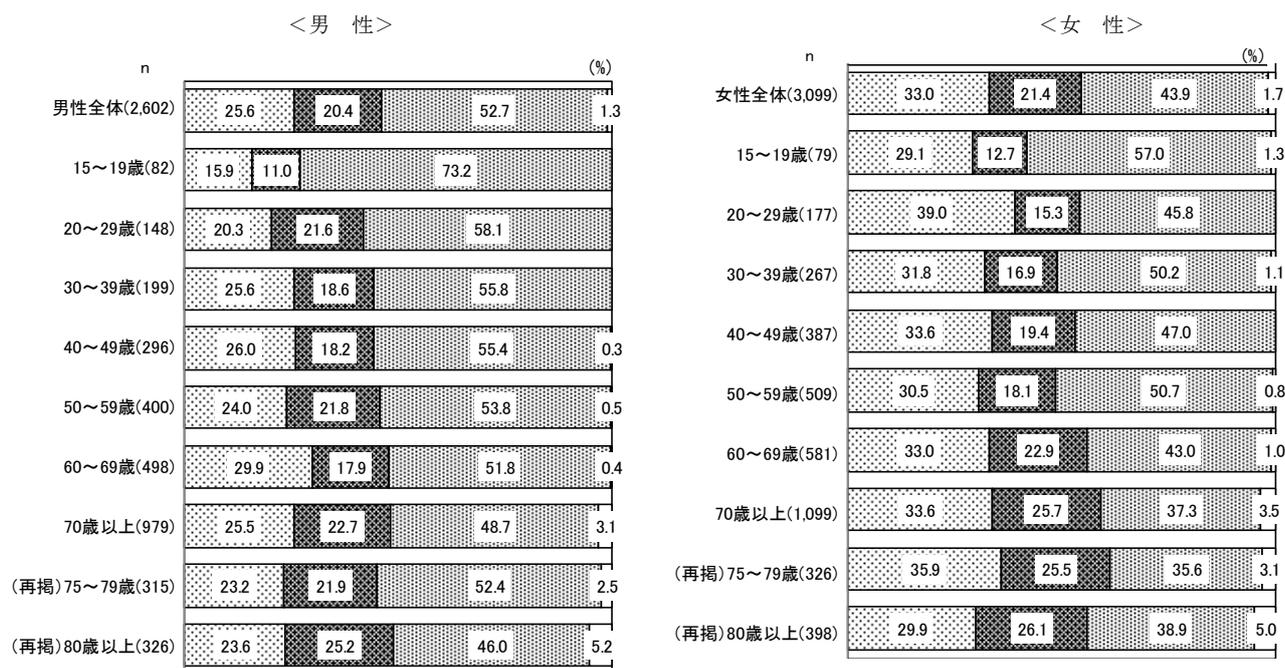


図12-2-2 糖尿病性腎症の認知度(性・年齢別)



過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」(29.6%)は令和5年度(36.2%)より6.6ポイント減少した。また、「知らない」(47.9%)は令和5年度(40.3%)より7.6ポイント増加した。

(図12-2-3)

性別で過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」は男女ともに令和5年度より減少した。

(図12-2-4)

図12-2-3 糖尿病性腎症の認知度(過去の調査との比較)

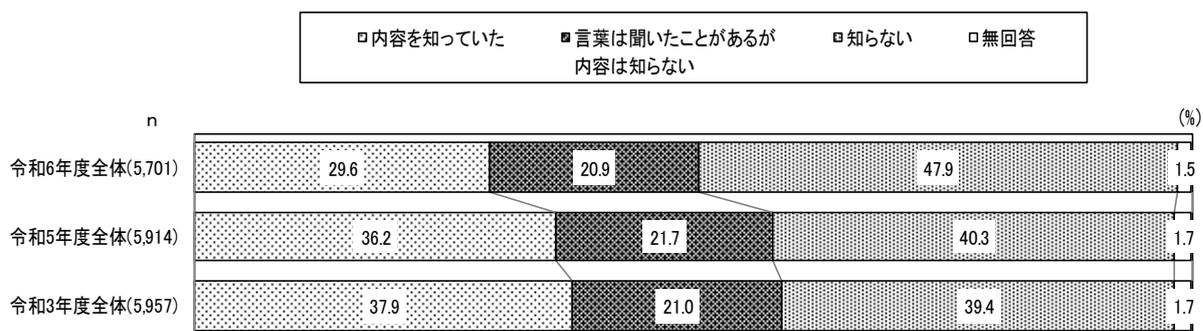
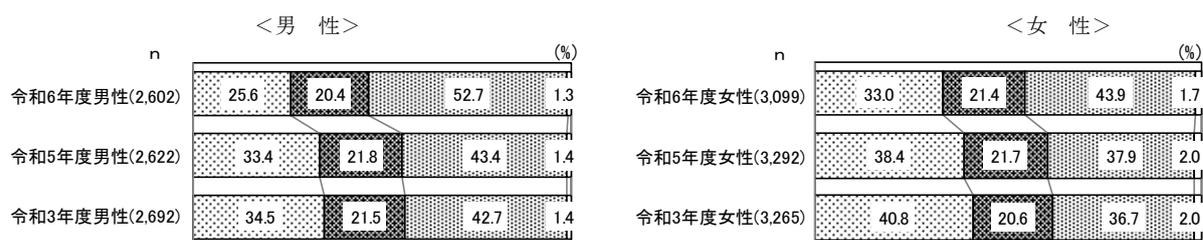


図12-2-4 糖尿病性腎症の認知度(過去の調査との比較・性別)



### (3) COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度

問 42 COPD（慢性閉塞性肺疾患）とは、「たばこの煙を主とする有害物質が長期に気道に触れることによって起きる炎症性の疾患で、主な症状として咳・痰・息切れがあり、徐々に呼吸障害が進行する疾患」のことで、喫煙者の 20%～50%がCOPDを発症するといわれています。あなたは、この内容を知っていましたか。（○はひとつ）

全体では、「内容を知っていた」が25.1%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が19.1%で、この2つを合わせた《認知している》は44.2%となっている。また、「知らない」は54.6%となっている。（図12-3-1）

性別にみると、「内容を知っていた」は、女性（29.0%）が男性（20.4%）より8.6ポイント高くなっている。（図12-3-1）

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は、男性が40～49歳（27.7%）、女性が40～49歳（34.6%）で最も高くなっている。また、女性の20～59歳では3割を超えて高くなっている。

（図12-3-2）

図12-3-1 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度（全体／性別）

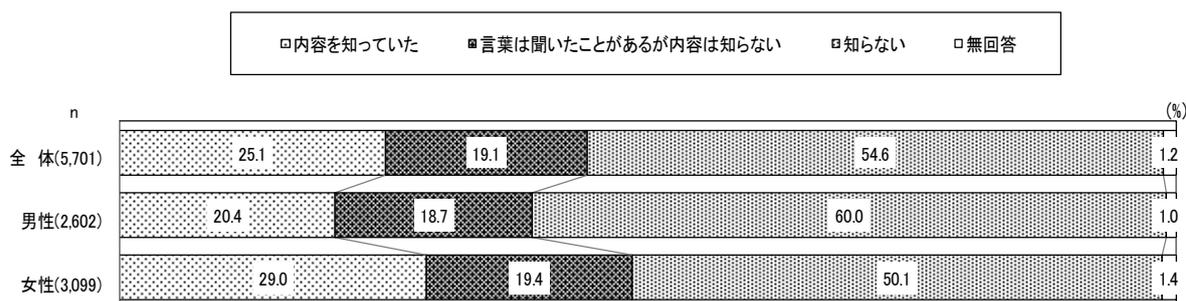
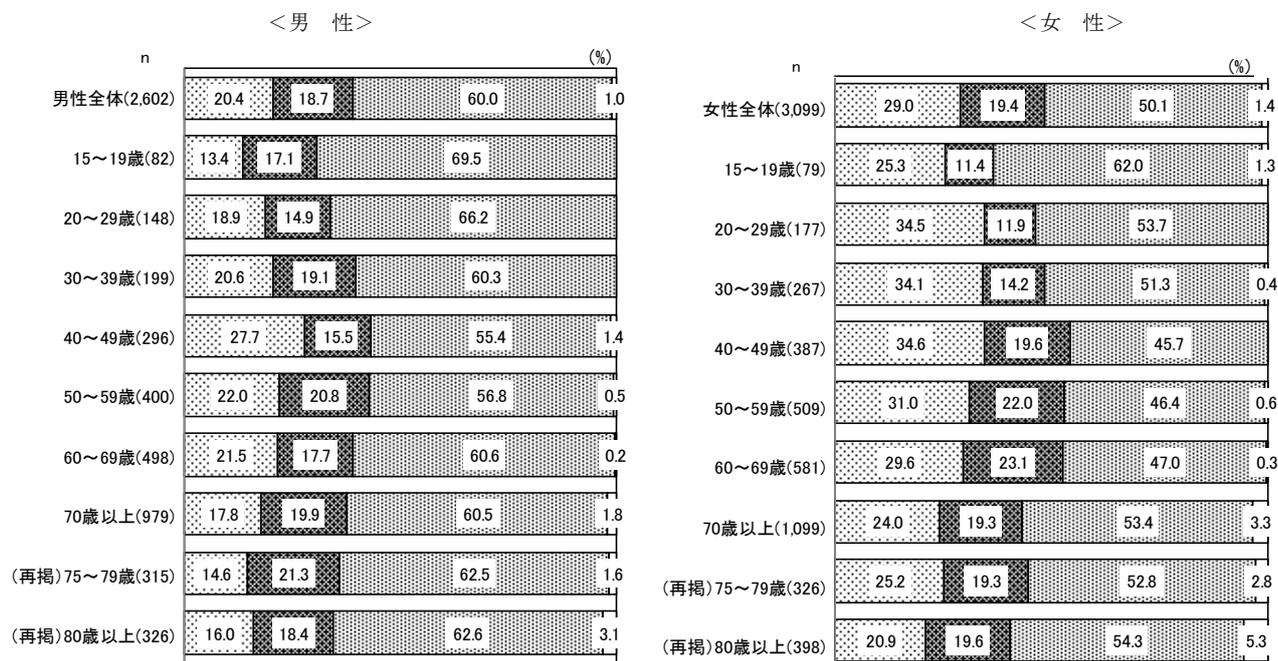


図12-3-2 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、「認知している」(44.2%)は令和5年度(50.0%)より5.8ポイント減少した。(図12-3-3)

性別で過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」は男性(20.4%)で、令和5年度(27.6%)より7.2ポイント減少した。(図12-3-4)

図12-3-3 COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度(過去の調査との比較)

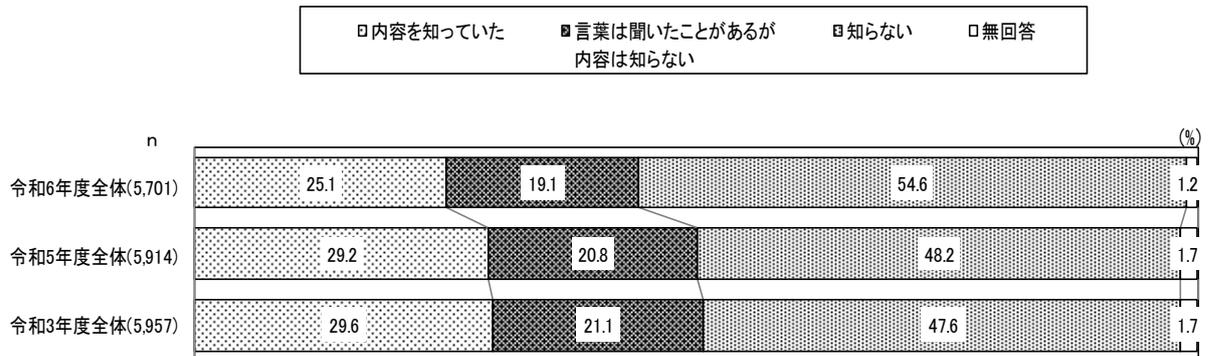
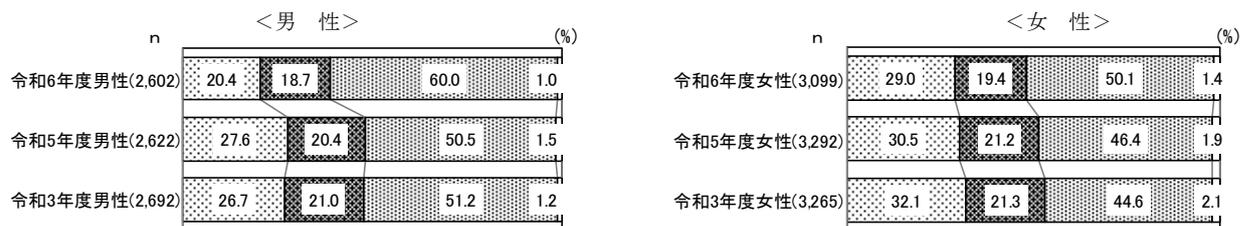


図12-3-4 COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度(過去の調査との比較・性別)



#### (4) CKD（慢性腎臓病）の認知度

問 43 CKD（慢性腎臓病）とは、腎臓の働き（腎機能）を示す値であるGFRが60ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満に持続的に低下していたり、あるいはタンパク尿が持続的に出ていたりする状態のことで、日本には1,330万人のCKD患者がいると推算されており、新たな国民病ともいわれています。あなたは、この内容を知っていましたか。（○はひとつ）

全体では、「内容を知っていた」が11.2%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が18.9%で、この2つを合わせた《認知している》は30.1%となっている。また、「知らない」は68.8%となっている。（図12-4-1）

性別にみると、「内容を知っていた」は、女性（13.3%）が男性（8.8%）より4.5ポイント高くなっている。（図12-4-1）

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は、男性が60～69歳（12.2%）、女性が20～29歳（16.4%）で最も高くなっている。（図12-4-2）

図12-4-1 CKD（慢性腎臓病）の認知度（全体／性別）

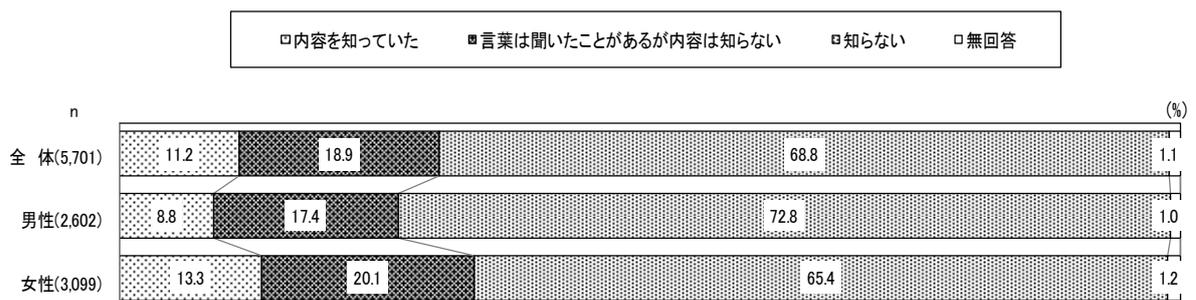
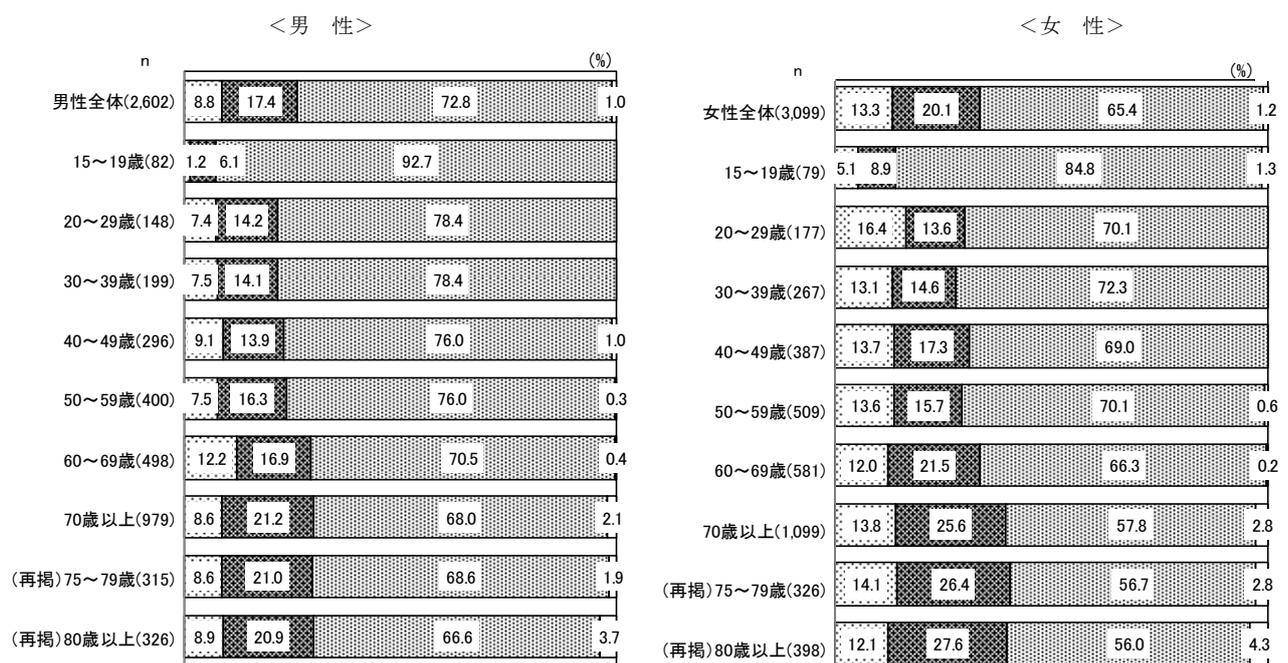


図12-4-2 CKD（慢性腎臓病）の認知度（性・年齢別）



※本設問は令和6年度調査の新設。